

—アメリカ議会図書館所蔵地図の検討—

Military Maps of China Produced by Russia, Germany and Japan
during the 1900s decade
a study of maps housed in the Library of Congress Collection

山近久美子(防衛大学校)*, 渡辺理絵(日本学術振興会特別研究員(PD)筑波大学),
波江彰彦(大阪大学), 鈴木涼子(東京大学・院), 小林茂(大阪大学)
YAMACHIKA Kumiko (National Defense Academy of Japan)*, WATANABE Rie (JSPS
Research Fellow (PD) Tsukuba University), NAMIE Akihiko (Osaka University),
SUZUKI Ryoko (Graduate Student, The University of Tokyo) and KOBAYASHI Shigeru
(Osaka University)

キーワード：陸地測量部，プロイセン，ロシア，中国，アメリカ議会図書館

Keywords：The Land Survey, Prussia, Russia, China, Library of Congress

はじめに

外邦図の調査過程において、アメリカ議会図書館(LC)に外邦図が多数所蔵されていることが確認され、2008年3月から、2010年9月にかけて計6回の調査を行ってきた。最も大きな成果として、従来外邦図の作製は、既存の地図を蒐集、編集する準備期を経て、1888年陸地測量部設置以降に実測を伴う整備期が来るとされていたのに対し、陸地測量部設立以前に、簡易測量ながら、日本軍将校が現地において情報を得て作製した事実を明らかにした点が挙げられる(小林2010、渡辺2009)。

さらに、存在が指摘されていたロシアやドイツ作製の旧満州および山東半島の地図(小林2006、口羽1919)についても確認することができた。本発表では、アメリカ議会図書館所蔵のロシア、ドイツ作製の中国軍事測量地図について作製の背景を概観し、外邦図との比較を含めて報告する。

1. プロイセン王国軍による地図作製

日本の陸地測量部設立に影響を与えたとされるドイツ、プロイセン王国では、1700年以降実用的な地図が作製され始めた。軍による地図作製は、1809年に戦争省が設置され、1814年参謀本部の測量部門として、天文三角測量科と測量地図科が置かれたことに始まる。2年後には、プロイセン王国内の測量業務がすべて参謀本部に移管された(細井2007)。1820～1876年までの地形図測量に650人の陸軍将校が従事し、2,900面完

成したとも言われる。

1875年にはプロイセン王国陸地測量部が設置され、三角測量科、地形測量科、地図作成科、後に写真測量科により編制された。ドイツ帝国を構成する他の王国もプロイセン王国公式地形図と同一の図式によって帝国地図などを作製するなど、1870年代の中頃以降、地形図作成体制が整っていった。

2. ロシア軍による地図作製

ロシアでは、1797年に地図貯蔵所が設けられ、1801～1804年に隣接外邦詳細図が刊行された。軍事地形測量技師団が1822年に設立され、ヨーロッパロシアの西部について三角測量および地形測量を行った(金窪2010)。ロシアの長さの単位のうち、1ヴェルスタが1.067kmであり、露里と訳される。1露里図は、縮尺が約1:42,000となる。平板を用いた地形測量も行われ、1845年以降ヨーロッパロシアの3露里図や10露里図が作製された。

ロシアによる満州地域の調査は、ロシア地理学会により19世紀中葉に開始され、軍事省に引き継がれた。日清戦争後の遼東半島をめぐる日本との関係の中で、ロシア軍参謀本部は、1894～1897年に将校を隊長とする長期偵察を行い、歩測と目測により地図を作製した。

3. 中国に関する軍事測量地図

ドイツは、1897年に中国山東半島東南岸の膠州湾を占領し、租借地とする。リヒトホーフエンによる1868

～1872年の探検調査の背景には、中国進出をねらうドイツの政治的状況があった。LC所蔵の100万分1図“Übersichtsblatt zur Karte von Ost-China 1:1000000”（LC番号G7820 s1000 .P7）は、路上図群である。図1の注部分や各図の下部には、リヒトホーフェンの未公開中国地図を一部使用したとの記載がみられる。図1によれば100万分1地図は朝鮮半島や台湾までを含めて22図幅あった。都市、道路が規模により描き分けられ、地形も描かれた彩色地図である。

ドイツの地図としては、他に縮尺168,000分の1図“Marshrouten-karte der Prov. Mukden.1904.”（LC番号G7823 .L4P2 s168 .P7）がある。これらは調査者の歩いた道に沿った部分の集落、地形を記した日本軍作製の路上図と類似している。ロシアの地図をコピーしたとの注が注目される。

もともとなったロシアの地図は、縮尺168,000分1の“Marshrutnoi karty Mukdenskoi provintsii 1901-1902g”（LC番号G7823 .L4P2 s168 .R8）である（図2）。いわゆる4露里図であり、遼東半島から北の東北平原を範囲としている。

1858年ロシアは、清国に対シアムール河以北の地域を割譲させ、1860年には沿海州を手中に収める。1858年～1879年に松花江を遡行しての調査、1891～1896年には、シベリア鉄道建設に伴う測量により、地図が作製された。さらに1900年段階では、日本との戦争を想定して地形測量作業が進められた。図2は7名の測量者による行軍路線測量を実施と金窪（2010）が紹介

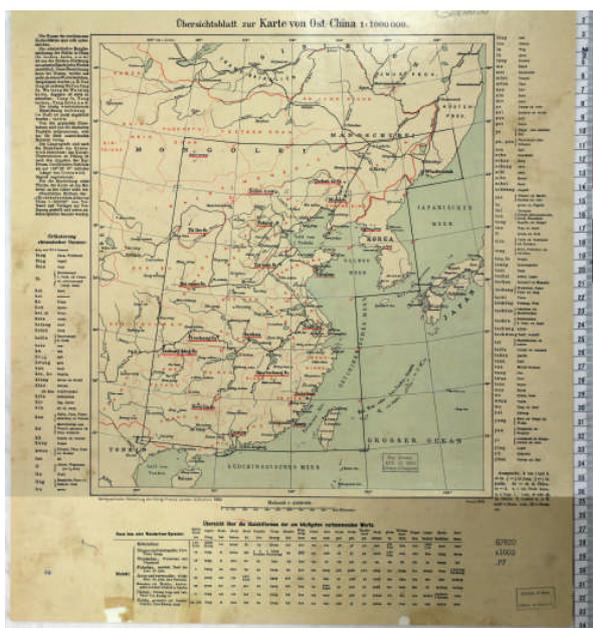


図1 100万分1東中国地図インデックスマップ
（1901年 プロイセン王国陸地測量部）LC所蔵

する成果に当たると考えられる。同時期に縮尺10露里図の満州図や、4露里の朝鮮、満州および渤海地区図（76図葉）なども印刷された。

おわりに

ロシア、ドイツ作製の上記地図を日本軍作製の外邦図手書き原図と比較すると、ロシアの測量地図は、日本軍のものと歩いたルートが異なり、記された都市外形に違いがみられる。一方で、図1は「假製東亜輿地図」（1894年）の影響をうかがわせる。これらの図は、1919年（大正8）に臨時第二測図部長の口羽武三郎がロシアの満蒙調査、ドイツの山東省20万分1地図、さらにイギリス、アメリカの秘密測量について言及している中国における列強の測量状況の解明に貢献できるものである。

〈参考文献〉

金窪敏知 2010. ロシア軍による日露戦争戦場の地図作製. 外邦図研究ニューズレター, No7: 9-29.
口羽武三郎 1919. 支那測量管見. アジア歴史資料センター. Ref.C03022502100.
小林茂 2006. 近代日本の地図作製と東アジア-外邦図研究の展望. E-journal GEO, vol.1(1): 52-66.
小林茂・渡辺理絵・山近久美子 2010. 初期外邦測量の展開と日清戦争. 史林, 93-4: 1-33.
細井将右 2007. プロイセン王国における近代地図作成. 教育学部論集, 58: 1-10.
渡辺理絵・山近久美子・小林茂 2009. 1880年代の日本軍将校による朝鮮半島の地図作製-アメリカ議会図書館所蔵図の検討. 地図, 47(4): 1-16.

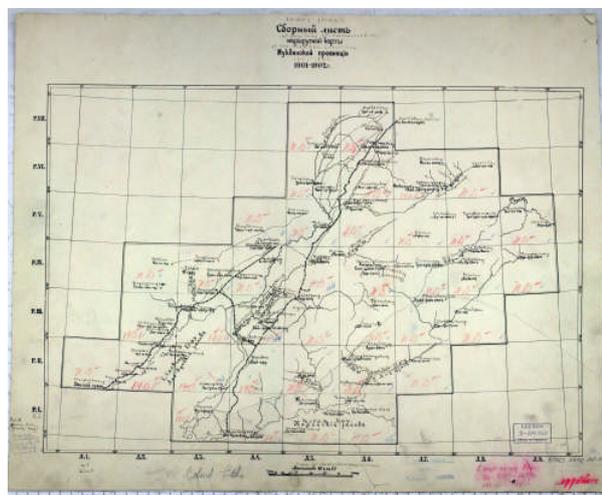


図2 ムクデン（奉天）地区インデックスマップ
（1901-1902年 軍事地形測量技師団）LC所蔵